

FUJIEDA ROTARY CLUB Weekly Bulletin

例会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-2-48 TEL 054-641-3321
事務局：藤枝市青木1-9-16 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040
E-mail club1972@fujieda-rotary.org



会長：村松英昭 副会長：小宮弘一郎
幹事：後藤 功 副幹事：青島 彰

2006-2007年度
RIテーマ

第1677回



率先しよう

ウィリアムB. ボイド

溪流

写真提供：青島克郎君

<ソング>四つのテスト
<ソングリーダー> 竹田 勲君

会長報告

村松 英昭君

先日の23日(日)に、藤枝ロータリークラブが後援している第44回藤枝市柔道祭があり、私と後藤功幹事、小宮弘一郎副会長の3人で開会式に出席いたしました。

会員の渡辺篤司君が大会委員長としてすべてに指示を出し奮闘しておられました。

参加選手は、幼稚園児から小学生、中学生、高校生、一般までの男女と、年齢層も幅広く、約200名の参加者でした。

開会式では、選手はきちっと整列し、礼儀正しく私語をする選手はいませんでした。試合の前後には開始の礼、勝っても負けても試合後の礼をきちっとし、大変さわやかな感じがしました。武道は、礼に始まり礼に終わると言われていますが、この事を教えている渡辺篤司君をはじめとする指導者のたまものと思いました。

現在、私達が忘れてしまっている礼を改めて思い出させてくれました。

「礼」について広辞苑で調べてみました。

①社会の秩序を保つための生活規範の総称。儀式・作法・制度・文物などを含み、儒教では最も重要な道徳的観念として「礼記(らいき)」などに説く。

②規範・作法にのっとっていること。

③敬意を表すこと。その動作。おじぎ。

④謝意を表すこと。

と書いてありました。

今日は、直前会長の鈴木廣利君の卓話です。こ

の一年間、松葉隆夫幹事と共に本当にご苦労様でした。本日はどのようなお話が聞けるか楽しみにしています。宜しくお願い致します。

幹事報告

後藤 功君

- ガバナー事務所よりお知らせが届いております
 1. 事務連絡方法の確認(郵送とFAX)
 2. 熱海ロータリークラブがRIから脱会致しました。
 3. WCS奉仕活動の助成金受付開始
 4. 「地区ロータリー財団セミナー」開催のお知らせ
- 鈴木亀雄バスターガバナーより暑中見舞いが届いております

委員会報告

親睦委員会

委員長 前島 章男君

納涼例会 7月30日(日)

藤枝市商工会議所 8:00集合

国際奉仕委員会

副委員長 松葉 隆夫君

青少年交換学生 派遣生(ブラジル)

竹越 翔子さんが8月14日帰国予定です。

社会奉仕委員会

副委員長 村松 宏一君

蓮華寺池公園清掃奉仕協力をお願い

藤枝花火大会翌朝の清掃作業 8月8日(火)

6:50集合 作業開始 7:00

*軍手・ゴミ袋は用意致します。ロータリーの帽子着用をお願い致します。

出席報告

青島 彰君

本日のホームクラブ 出席者	前回の補正出席者
27/41 65.85%	34/41 82.93%

(1)欠席者（事前連絡とメイクアップをどうぞ）

○北村君 ○杉浦君 ○仲田廣君 ○松葉義君
浅川君 板倉君 石垣君 桜井富君 鈴木晶君
鈴木舜君 仲田晃君 宮川君 望月志君 山田君

(2)メイクアップ者

北村 幸男君（静岡南） 松葉 隆夫君（藤枝南）
村松 宏一君（静岡北）
藪崎幸一君（藤枝南）

パスト会長卓話

鈴木 廣利君

梅雨の晴間とはゆえ、大変厳しい暑さになりました。今日は全国で静岡県が一番湿度が高いと云っていました。



私は藤枝RCの第34代会長を務めさせていただきましたが、この一年間会員の皆様のご協力により、何とか無事に終る事が出来、感謝しております。

本日は「この一年間を振り返って」と云う事でお話をさせていただこうと思いましたが、先月の最終夜間例会でほとんど話をしてしまいましたので、本日は私の仕事での知識とか、趣味の一部を話してみたいと思います。

世界には沢山の国があります。国連加盟の国だけでも、180カ国以上あると思います。そんな中で、私共の生活している日本は、四季の変化が特にあざやかな国として有名です。大半の国が夏だけ、又は冬だけ、春、秋があってもちよっぴりだけ、と云う国ばかりです。それらのほとんどの国が使っているのが太陽暦と云われる新暦です。しかし東南アジアのごく一部では、農業暦と云われる太陰暦が日本を含めてまだ残っています。現代の太陽暦は、明治5年11月9日に改暦が発表

され、12月3日が明治6年1月1日と定められました。つまりグレゴリオ暦になったのです。ですから日本は新暦になってからまだ133年しか経っておりません。

新暦は、太陽を回る地球の周期で一年間を365.2422日として、4年に1回うるう年を設けて調整しておりますが、旧暦は地球を中心に考え、月の周期から1年を354.37日とし19年に7回うるう月を設け、この年は一年間を13ヶ月、日数を385日にしておりました。その年には2月か5月、そして7月の中で、どの月かが一年に2回あります。たまたま今年がその年にあたり、7月が二度あります。つまり本日7月26日は旧暦の7月2日で、来月8月25日も又旧暦の今度はうるう7月の2日になっているのです。日めくりがお宅にある方は是非見て下さい。

昔から日本では和歌、俳句、短歌、そして書画等に季語が使われておりますが、それらは全て旧暦からきております。新暦の7月7日の七夕では、梅雨の最中で天の川はおろか、星もほとんど見えないと思うし、「ひなまつり」には桃の花はまだ咲いていない。しかし旧暦で見ると、それらもぴったりします。特に農業に関しましては種を蒔く時期、田植え、稲、麦刈りの時期等は正確そのものです。これは4,000年も前に中国で作られ、日本には西暦500年頃入ってきたもので、今でも中国や韓国ではこの旧暦が生活の主流になっています。

さて、植物の話をしてしましよう。仕事柄そちらは専門です。植物は土に根を張って生きています。この土壌は土だけで出来ているわけではありません。土は固体と液体、気体の三つから成り立っています。これを土の三相と云います。ですから、作物を作ったり、花を植えたりする時には、必ず一生懸命に耕す事が大切です。つまり、水や空気を通りやすくしてやる事です。植物の地上部が呼吸をしている事は誰でも知っておりますが、根の部分が呼吸している事は忘れられがちです。根も息をしているのです。

次に、私はよく園芸相談員をやっておりますが、いろんな方がお見え下さいます。「ナスを植えたからカボチャがなった」とか「ボタンの木にシャクヤクが咲いた」「スイカを作ったと思ったら、何か変なものが成っている」等々。現代は家庭菜園のブームで、野菜を作っている人は大勢いますが、PH(土壌酸度)の関係と連作障害をきらう為に、ほとんど接木苗を使っています。その台木としてカボチャ、夕顔、カンピョウ等の、根部の強いものを使いますので、深植にすると台木が勝って生育してしまうから、逆に浅植にする方が、根付きもよく失敗しません。

特に熱心な人は、ていねいに植えすぎるので、雑な人より失敗例が多いように感じます。又、植物には、種(シュ)と科(カ)があります。連作は同じようなものではなく同じ科のものは同一と考えて毎年同じものを植えずに3~4年の輪作を心掛ける必要があります。ナスを植え、次の年にトマトを作ったから、今年はジャガイモを植えようと考えたら、これはすべてナス科ですから、うまく出来ません。ナスの次はキュウリ、次の年は根茎のもの、次は葉物へと変える事が大切です。人は植物に触れたり、土に触る事で癒されると云います。ぜひ皆さんも家庭菜園や、園芸を楽しんで下さい。

(担当/成瀬)